



## 東地中海地域ニュース

### イラン情勢(12)：新たな局面の開始か

研究員 山崎 和美

#### 国内の情勢

#### ラフサンジャーニー師、はじめて内政状況に言及

イラン労働通信によると、ラフサンジャーニー師は、1981年の同日に起きたイスラーム共和党本部爆破事件の犠牲者追悼集会に出席した。同師は事件の遺族らに対し、大統領選後の「ややこしい騒乱」を実行しているのが、国民や体制の分断を招き、イスラーム体制への信頼を損なおうとする「不審な筋」だとの認識を表明した。

ラフサンジャーニー師はまた、大統領選の結果について各候補者の異議申し立てを認める期限の延期を最高指導者ハーメネイー師が承認したことを評価し、護憲評議会が公正かつ正当に、各候補者に協力的な姿勢で対応することを希望すると発言した。同師はさらに、「誤った行動で国民の間に新たな憎しみや亀裂を生んではならない。われわれは協力し、心を1つにして前進し、障害や困難を除去すべきだ」と述べた。

ラフサンジャーニー師は最高指導者を任免する権限を有する専門家会議の議長で、大統領選挙では改革派ムーサヴィー元首相を支持し、抗議行動において同師の娘が逮捕されるなどした。

#### 護憲評議会、アフマディーネジャード大統領の勝利を確認

国営テレビの報道によると、29日に大統領選挙の一部再集計が始まった。護憲評議会は全投票箱の10%を再集計するとしたが、選挙結果の取り消しを求める改革派候補のムーサヴィー氏は、この再集計を拒否している。同評議会は既に、選挙は公正だったとして再選挙の可能性を排除しており、アフマディーネジャード大統領再選という最終結果が確定した。

#### 改革派3000人と治安部隊が衝突

毎日新聞によると、改革派の集会が28日、テヘラン北部のモスク近くであり、参加した約3000人(米CNNの報道では5000人)と治安部隊が衝突した。集会はイスラーム革命(79年)功労者の一人で81年の爆弾テロで暗殺されたイスラーム法学者ベヘシュティー師を追悼するため毎年開催されており、これを名目に集結した可能性がある。改革派ムーサヴィー元首相の側近が演説し、改革派キャッルービー元国会議長も姿を見せた。

テヘランでは毎晩10時から改革派支持者が自宅の屋上やベランダなどから一斉に「神は偉大なり」「独裁者に死を」などと叫び、抗議の意思表示を続けてきた。だが、数日前に治安関係者が「半年間投獄する」と警告して回ったことで鳴りを潜めた。

国営メディアによると、選挙開票以来の一連の衝突で、これまでに少なくとも改革派支持者らの少なくとも17人、バスィージ(革命防衛隊の動員部門)の8人がそれぞれ死亡した。パリに本拠を置く非政府団体「イラン人権擁護戦線」によると、2000人以上が逮捕された。

#### ムーサヴィー元首相、新たな提案

ファールス通信が29日伝えるところによると、イラン大統領選で敗れた改革派候補の

ムーサヴィー元首相は、選挙結果を検証するために設立された委員会に対し、選挙をめぐる新たな提案を行うと見られる。メヘル通信は、ムーサヴィー氏はすでに提案を提出済みで、内容は得票数の再集計方法に関係していると思われると報じた。

## 対外関係

### イラン情報相、西側諸国批判

イラン情報相は 28 日、大統領選の結果に対する抗議活動は西側諸国に責任があると非難した。同相は政府系放送局プレス TV に対し、米国主導の外部勢力が抗議デモを煽っていることを裏付ける「動かぬ証拠」を、イラン当局が入手していると主張し「米国を含む少なくとも西側 2 カ国が(デモを)主導している」と述べた。また、ファールス通信に対して、首都テヘラン市内の英大使館がメディアや地元住民を使い、このところの騒乱で「重要な役割」を担ったとの認識を示した。同相は、英大使館が地元職員を利用して「特定の人々」を街頭デモに送り込み、騒乱を実行させたとの見解を示した。

### イラン放送局、ネダーさん銃撃死要因に異議

ネダー・アーガーソルターンさんが銃撃され死亡した映像が世界的反響を呼んだ問題で、同国の政府系放送局プレス TV は 28 日、銃を撃ったのは治安部隊やバスイージではないとの見方を示した。

またこの問題に関して、アフマディーネジャード大統領は 29 日までに、事実解明に向けた調査を開始するよう求める書簡を司法府代表のシャフルディー師に送った。同大統領はこの中で、「胸の張り裂けるようなこの事件をめぐる数々のねつ造報道や外国メディアによるプロパガンダから判断して、イランの敵による明らかな干渉があるようだ」と述べた。

### 英外相と電話協議、英大使館職員 5 人を釈放

イラン外務省の報道官によると、28 日夜にミリバンド英外相とモッタキー・イラン外相は電話会談を行った。この中で英外相は、英国にイラン内政問題に干渉する意図はないと強調した。それに対してイラン外相は「実際にそうした事実を証明するなら、前向きな措置と判断できる」との見解を示したという。

国営テレビによれば、イラン外務省は 29 日、治安当局が身柄を拘束していた在テヘラン英国大使館の現地スタッフ 9 人のうち 5 人を釈放したことを明らかにした。

### 英首相、職員解放を要求

ブラウン英首相は 29 日、在テヘラン英大使館の現地職員 4 人がイラン当局によって依然拘束されていることについて、「根拠のない不当行為であり、受け入れられない」と厳しく非難し、4 人を解放するようイラン側に強く要求した。

### サミットで対イラン制裁の可能性

ベルルスコーニイ首相は 29 日、南部のナポリで記者会見し、7 月 8~10 日に同国が開催するラクイラ・サミット(主要国首脳会議)において、イランに対する制裁で合意する可能性があるとの見解を示した。AFP 通信などが伝えた。